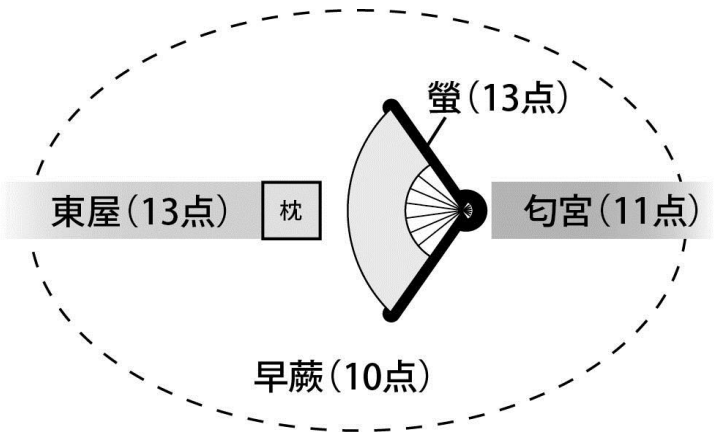
資料1： 追加された銘と点数の覚え方

2013/09/26 其扇庵銀扇・其扇庵匠胡による発表
2013/11/02 支部代表者会議を経て内容を修正

【表1】 新しく増える14銘定のうち、12種は扇が枕に掛かった形。先にそれ以外の「螢」と「胡蝶」を覚えましょう。

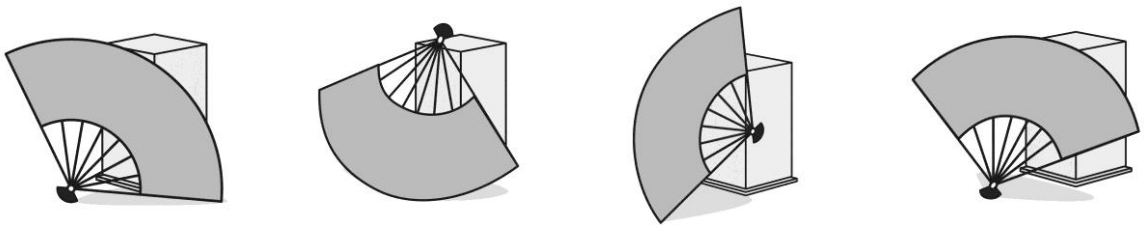
扇が枕に掛かったもの（12種）			それ以外（2種）
・あおい（葵）	・はつね（初音）	・しいがもと（椎本）	・ほたる（螢）
・わかなのじょう（若菜上）	・まぼろし（幻）	・こうばい（紅梅）	・こちょう（胡蝶）
・とこなつ（常夏）	・たまかずら（玉鬘）	・かげろう（蜻蛉）	
・たけかわ（竹河）	・はしひめ（橋姫）	・ふじのうらは（藤裏葉）	

【図1】「螢」
扇が落ち、蝶が要か親骨のそば（扇の替え幅程度）に立っていれば「螢」。
「早蕨系」は、蝶が立っている場所によって銘が決まります。



【図2】「胡蝶」
「澪標」＋「横笛」の形→45点。
「澪標」＋「浮舟」の形→40点。
「澪標」＋「夕顔か朝顔」→30点。

【表2】扇の向き
従来は、扇が枕に寄り掛かった場合は、主に蝶の状態により銘が決まっていましたが、新しい銘定では扇の向きの違いも細かく区別することになりました。
扇の向きには、次の4種類があります。



基本形　末広がり　橋に掛かる　両褄上がり（あっぱれ）

「末広がり」は藤袴と同様、「要が枕の幅の内にある」ことが前提条件となります。枕から外れていたら基本形と同じ扱いということです。
「橋に掛かる形」は総角と同様（片褄だけで立ち、地紙で枕にかかり、要は宙に浮く）に判定し、条件を満たしていなければ基本形と同じ扱いになります。

【表3】蝶の状態と扇の向きで分類した表

蝶の状態＼扇の向き	基本形	末広がり	橋に掛かる	両褄上がり（あっぱれ）
関屋グループ 蝶が枕の上に立つ	関屋 （1点）	藤袴 （2点）	**若菜上** **（3点）**	**葵 / 関屋の加点 ※** **（3点）**
行幸グループ 蝶が地に落ちて倒れる	行幸 （4点）	行幸 （4点）	総角 （5点）	**竹河** **（7点）**
若菜下グループ 蝶が枕の上で倒れる	**常夏** **（5点）**	**初音** **（9点）※**	若菜下 （8点）	**常夏の加点** **（15点）**
若紫グループ 蝶が地に落ちて立つ	若紫 （13点）	**椎本 ※** **（18点）**	**橋姫** **（15点）**	**玉鬘 / 紅梅 ※** **（13点）/（20点）**
空蝉グループ 蝶が枕から吊られる	空蝉 （18点）	**藤裏葉 ※** **（40点）**	**幻** **（12点）**	**蜻蛉 ※** **（20点）**

従来の銘定を扇の向きだけで単純に分けたのではなく、もうちょっと細かい条件があったりしますので、特に「※」がついた銘は「資料2」もご参照ください。

【表4】既存の銘定に（扇の向き以外に）新たな条件が加わったもの（4種）

「椎本」（18点）	「若紫」で、末広がりで、蝶が枕か扇から替幅程度の近くに立った場合
「紅梅」（20点）	「若紫」で、蝶が扇を支えることで両褄上がりを維持している場合 ※蝶が扇に触れていても、扇だけで両褄上がりを維持できるしっかりした形なら「**玉鬘の加点**」（23点）となる。
「蜻蛉」（20点）	「空蝉」で、両褄上がりで、枕と扇が蝶をはさんだ場合
「藤裏葉」（40点）	「空蝉」で、末広がりで、扇と蝶が枕の対面に掛かった場合

【表5】加点の形のうち、比較的よく出ると思われるもの（2種）

「竹河」の加点（12点）	「薄雲」か「賢木」で、両褄上がりで、扇の要と蝶と枕が替幅程度に集合
「椎本」の加点（23点）	「若紫」で、末広がりで、立った蝶が薄雲の状態

●銘の覚え方の一例

「若菜下」に関連する銘→季節から連想
「若菜」…「初春に採れる葉菜類」。「常夏」…「常に夏のような気候であること」。
「初音」…「その年（季節）初めて聞こえる虫や鳥（特にウグイス）の鳴き声」。

「若紫」に関連する銘→植物から連想
「椎本」の「椎」はドングリの一種。「紅梅」はもちろん「梅」。「紫」は元々「ムラサキ」という植物の名。
「玉鬘」は…「鬘＝カツラ」ではなく同じ音の「蔓＝カズラ」なら「つる植物の総称」。ちょっとこじつけですが。
※例外は「橋姫」ですが、「扇が橋を掛けた形」で「若紫→幼少時の紫の上」ということから、「橋＋姫」で「橋姫」。

「空蝉」に関連する銘→見づらいもの、はかないもの
「空蝉」は「セミの抜け殻」のこと。「蜻蛉」は成虫の寿命が1日しかないと言われる、か弱くはかない虫。そして「幻」、および「裏」。

資料2： 行司の銘定の流れ

2013/09/26 其扇庵銀扇・其扇庵匠胡による発表
2013/11/02 支部代表者会議を経て内容を修正

・行司が銘を定める際の基本として「**まず高い方（難しい条件）から見ていく**」という流れがあります。
行幸の扇が横立ち（橋を掛けた形）になり「総角だな」と思っても即断はできず、「薄雲かも」「須磨かも」とチェックし、
さらに「2ヶ所が地に着いているかも」「骨が枕にかかっているかも」と、色々な条件をチェックしなければなりません。
今回の新銘定でチェック項目がさらに増えましたので、見落としがないように列挙してみます。お役に立てば幸いです。

・資料1は新銘定を「覚える」ための物でしたが、この資料2ではより実践的に、既存の銘も一緒に挙げて考えていきます。
また、資料1では省いた**加点規定についても網羅**しますので、ぜひお役立てください。
※なお、胡蝶については除外しました。また、今回の新銘定で影響がなかった形も省きます。

・資料1にも挙げたように、「末広がりの形」および「橋に掛かる形」については、それぞれ藤袴や総角と同じ厳密な条件があり、
それらを満たさなかった場合は基本形と同じ扱いになります。これは以下の2．～6．に共通です。

1．扇が落ち、蝶が立っている形（「早蕨」系）

蝶が枕をはさんで扇の反対側	→	東屋（あずまや）につき13点
蝶が扇の**要か親骨**から替幅程度しか離れていない	→	**蛍（ほたる）につき13点**
枕、扇、蝶の順に並び、蝶は要や親骨から離れている	→	匂宮（におうのみや）につき11点
上記のどれにも該当しない	→	早蕨（さわらび）につき10点

2．扇が枕にかかり、蝶が枕の上で立ったままの形（「関屋」系）　※扇が蝶に触れなかったら手習

両褄上がりで、**扇は枕の後ろ**	→	**葵（あおい）につき3点**
両褄上がりで、**扇は枕の後ろ以外**	→	関屋（せきや）の加点につき3点
橋に掛かる形（総角の形）	→	**若菜上（わかなのじょう）につき3点**
末広がりの形で、要が枕の幅の中	→	藤袴（ふじばかま）につき2点
上記のどれにも該当しない	→	関屋（せきや）につき1点

3．扇が枕にかかり、蝶が地に落ちた形（「行幸」系）

両褄上がりで、**蝶と要と枕が替幅程度の範囲に集まる**	→	**竹河（たけかわ）の加点につき12点**
蝶が扇の陰に隠れる （扇の形は不問）	→	薄雲（うすぐも）につき8点
蝶が扇の表から寄りかかる （扇の形は不問）	→	宿木（やどりぎ）につき8点
扇が蝶の上に乗る （扇の形は不問）	→	賢木（さかき）につき8点
両褄上がり	→	**竹河（たけかわ）につき7点**
蝶が枕の陰に隠れる （扇の形は不問）	→	須磨（すま）につき6点
橋に掛かる形	→	総角（あげまき）につき5点
上記のどれにも該当しない	→	行幸（みゆき）につき4点

4．扇が枕にかかり、蝶が枕の上で倒れた形（従来は「若菜下」）

両褄上がり	→	**常夏（とこなつ）の加点につき15点**
末広がりで、**扇が手前**で、蝶の一部が骨の間からはみ出す	→	**初音（はつね）の加点につき14点**
末広がりで、**扇が手前**で、扇が枕の上辺にかかる	→	**初音（はつね）につき9点**
橋に掛かる形	→	若菜下（わかなのげ）につき8点
末広がりで、要が枕の上辺に届かず**前面**に支えられる	→	**初音（はつね）の減点につき5点**
上記のどれにも該当しない ※	→	**常夏（とこなつ）につき5点**

※末広がりでも「要の部分が枕の幅の横に出ている」と、藤袴が関屋になるのと同様、初音ではなく常夏になる。
橋に掛かる形でも「総角」の条件（ここでは略）を満たさない場合は、やはり常夏になる。
また、末広がりでも扇が**枕の側面や向こう側の面にかかった場合は常夏**になる。

5．扇が枕にかかり、蝶が地で立った形（従来は「若紫」）　**※数が多いので、さらに扇の形によって分類します。**

5－1．橋にかかる形

枕→扇→蝶が一直線に並ぶ	→	**橋姫（はしひめ）の加点につき25点**
上記以外	→	**橋姫（はしひめ）につき15点**

※「橋姫」は「明石」と同じ点なので、蝶が須磨状態になっていても明石に取らなくてもよい。どちらでも可。
※枕と扇と蝶が「梅ヶ枝」のように並んでいても、加点になるのは「橋姫」の形だけ。
※総角状態に近くても**総角の条件を満たしていなければ、明石か若紫**になる。「**5－4**」を参照。

5－2．末広がりの形

蝶が薄雲の状態	→	**椎本（しいがもと）の加点につき23点**
蝶が扇か枕から替幅程度の近くに立つ	→	**椎本（しいがもと）につき18点**
扇→枕→蝶が一直線に並ぶ	→	明石（あかし）につき15点
上記のどれにも該当しない	→	若紫（わかむらさき）につき13点

※たとえ薄雲状態になっていても、**末広がりでなければ単なる若紫（あるいは橋姫か玉鬘）**となる。

5－3．両褄上がりの形

扇が**枕の後ろ**にあり、単独で両褄を維持し、蝶が扇に触れる	→	**玉鬘（たまかずら）の加点につき23点**
蝶が扇を支えることで両褄上がりを維持している	→	**紅梅（こうばい）につき20点**
扇→枕→蝶が一直線に並ぶ	→	明石（あかし）につき15点
扇が**枕の後ろ**にある	→	**玉鬘（たまかずら）につき13点**
上記以外	→	若紫（わかむらさき）につき13点

5－4．上記以外の形（基本形か、末広がりもしくは橋の条件を満たさない場合）

扇→枕→蝶が一直線に並ぶ	→	明石（あかし）につき15点
上記のどれにも該当しない	→	若紫（わかむらさき）につき13点

6．扇が枕にかかり、蝶が枕の上から逆さ吊りの形（従来は「空蝉」）

扇が**手前で末広がり**、蝶は**向こう側**で逆さ吊り	→	**藤裏葉（ふじのうらは）につき40点**
扇が蝶にかかって枕に触れていない状態	→	空蝉（うつせみ）の加点につき33点
橋に掛かった形で、**扇が蝶を挟んで枕にかかる**	→	**幻（まぼろし）の加点につき22点**
両褄上がりで、**扇が蝶を挟んで枕にかかる**	→	**蜻蛉（かげろう）につき20点**
両褄上がりで扇が蝶を挟んでいない場合と、 末広がり、または基本形（親骨が地に落ちる）	→	空蝉（うつせみ）につき18点
橋に掛かった形で、扇は蝶を挟んでいない	→	**幻（まぼろし）につき12点**